【 活動報告】
鹿児島大学医学部保健学科紀要
22(1)：1－6，2012

鹿児島大学学生海外研修支援事業の報告

── 韓国の Chung-Ang University および保健診療所の訪問活動 ──

八代　利香[1)]，松成　裕子[1)]，李 笑 雨[2)]

要旨　　鹿児島大学の学生海外研修支援事業として，４名の学生が韓国の Chung-Ang University 医学部看護学科および２ヶ所の保健診療所の訪問活動を行った。今回，この活動をまとめ，振り返ることで，学生海外研修における今後の課題が明確となった。

Key Words：　保健診療員，看護教育制度，プライマリヘルスケア，韓国

はじめに

鹿児島大学では，大学憲章に基づき，自主自律と進取の精神を併せ持ち，かつ社会の発展に貢献し，国際社会で活躍できる人材の育成を図るため，本学で実施する学生の海外研修を支援することを目的として，「鹿児島大学学生海外研修支援事業」を実施している。この度，平成23年度鹿児島大学学生海外研修支援事業として，韓国の Chung-Ang University 医学部看護学科および２ヶ所の保健診療所の訪問活動を本学看護学専攻４年次生４名と教員２名が行った。

本学看護学専攻では，４年次生後期の看護教育学の授業において，グループごとにテーマ別学習を課している。その１つに「アジア諸国における看護教育制度」についてのテーマがある。学生４名は，大学化，大学院化，高度実践看護師制度が日本より早く進んでいる韓国の看護教育制度について資料収集を行うことになった。また，４年次生には，卒業研究が課せられている。その研究テーマとして「韓国における保健診療員制度」および「韓国におけるプライマリヘルスケアの実態」についての調査計画も行った。今回，2011年８月31日から９月４日までの５日間の鹿児島大学学生海外研修支援事業について報告する。

１．訪問の準備

鹿児島大学学生海外研修支援事業による韓国の Chung-Ang University 医学部看護学科および２ヶ所の保健診療所の訪問活動にあたり，学生海外研修プログラムの計画書を提出した。計画は八代と大分県立看護科学大学教授・ソウル大学名誉教授である李笑雨が立案した。現地との連絡調整は，メールにて英語，韓国語で行った。

また，参加学生は，事前に文献を用い，韓国における教育体制およびプライマリヘルスケア体制，日本の教育体制や保健医療体制についての学習を行った。

２．訪問活動の実際

１）Chung-Ang University 医学部看護学科との交流活動

2011年８月31日に鹿児島から直行便で出国し，９月４日に仁川から直行便で帰国した。すべての行程（表１）では，筆者らが行動を共にした。

(1) Chung-Ang University 病院の施設見学

Chung-Ang University 病院では，Seong Deok Kim 病院長・副大学長，Bouk Soon Kim 看護部長から歓迎を受け，ビデオによる病院の紹介があった。その後には，病院内を案内され，M・SICU（Medical・Surgical Intensive Care

1）鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻総合基礎看護学講座
2）大分県立看護科学大学

連絡先：八代　利香
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
Tel/Fax：099-275-6755　E-mail: yatsu-r@health.nop.kagoshima-u.ac.jp

表１．研修日程表

日	月 日	曜日	都市名	現地時刻	利用交通機関	内 容
1	8月31日	水	鹿児島 仁川 ソウル	12:10 13:45 16:00 20:00-21:00	航空機	ホテル到着 ミーティング
2	9月1日	木	ソウル	8:30-9:00 9:00-9:30 9:30-11:30 13:00-14:30 14:30-17:30 17:30-18:00 20:00-21:00	地下鉄	移動 ウエルカムセレモニー 病院施設見学 教授陣との顔合わせ・教育体制の説明 講義・学生交流企画・教育施設見学 移動 ミーティング
3	9月2日	金	ソウル YulGil	8:00-9:00 9:00-9:30 9:30-15:30 15:30-17:00 17:00-18:00 20:00-21:00	貸切バン	移動 ウエルカムセレモニー 保健診療員の業務の様子を観察 保健診療員にインタビュー 移動 ミーティング
4	9月3日	土	ソウル GilMyung	8:00-9:00 9:00-9:30 9:30-15:30 15:30-17:00 17:00-18:00 20:00-21:00	貸切バン	移動 ウエルカムセレモニー 保健診療員の業務の様子を観察 保健診療員にインタビュー 移動 ミーティング
5	9月4日	日	ソウル 仁川 鹿児島	6:00 9:30 11:05	航空機	移動

Unit)，小児病棟，特別病棟，救急外来，甲状腺専門外来，人工透析室，健康増進センターを見学することができた。また，病棟の看護管理者から具体的な説明があり，実習中の学生とも面談することができた。学生間では，カリキュラムの内容や実習の方法などの情報が得られ，講義と実習が同時期に並行して行われていることの違いが語られた。

(2) Chung-Ang University 医学部看護学科における交流活動

Chung-Ang University 医学部看護学科では，教育現場を見学した。まず，教授陣と面談が持たれ，担当の Young-Hee Yom 教授から大学の概要や教育内容，学生生活についてのプレゼンテーションがあった。次に Chung-Ang University の看護学生とともに，英語での講義を受講することができた。１つ目の講義は，八代の「A Transition of Health Care System and Nursing Education in Japan」であり，次に「Nursing Education System in Korea」として地域における訪問看護，家族看護についての講義が Chung-Ang University の地域看護学教授より行われた。講義の後，受講してのディスカッションの場が設けられ，２つの講義からの内容と，自国の看護教育について，さらには，両国の将来の看護職の課題や展望について，グローバルな視点から看護職の役割を考える機会となった。また，ディスカッションは英語で行なわれ，将来の看護の発展に貢献できるグローバルリーダーシップについても考察できるように教員がファシリテートした。その後，校内を案内され，実習室や演習室，使用している教科書や教材を見ることができた。学生は，講義や教本が英語であることなど，韓国の看護教育がグローバルな視点で行われていることを知ることができ，また，韓国の学生の積極性と活発さに触発されていたようであった。

写真１　Chung-Ang University 病院にて
（横は歓迎のタペストリー）

写真２　Chung-Ang University 医学部看護学科棟
（後方は歓迎の垂れ幕）

写真３　３年次実習生と

２）韓国保健診療所の訪問

保健診療員（Community Health Practitioner）とは，看護師免許取得後１年間の教育コースで，薬理学，病理学，診断技術，処置，緊急外科処置等を集中的に学び，農村地域に独立して診療所を開業している公務員看護師のことである。この制度は，過疎地域のプライマリヘルスケアを担う目的で，国により1981年から始められた[1)]。

今回，２ヶ所の保健診療所を訪問し，診療施設・設備および保健診療員の活動場面の見学を行い，保健診療所の機能や保健診療員の役割について話を伺った。また，保健診療員のプライマリヘルスケアに対する認識について話を聞き，プライマリヘルスケアに対する現状や課題について討議することができた。

（1）YulGil 保健診療所

YulGil 保健診療所は，韓国の京畿道南楊州市に位置しており，南楊州市保健所の管轄である。保健診療所は２階建であり，１名の保健診療員がそこに暮らし，20年間勤務している。住民は，65歳以上の人口が40％であり，高齢者の疾患特徴上，関節炎や高血圧，風邪，胃腸疾患等の患者が多いとのことであった。業務内容は，午前は診療所を訪ねてきた住民を対象に１次診療及び投薬を行い，午後は体の不自由な患者や一人暮らしの高齢者などの家を訪問するとのことであった。韓国の保健診療員は処方権を持ち，過疎地医療を一手に引き受けて[2)]いた。また，法的には毎年６日以内の補習教育を受けるように規定されていることから，研修の為に出張する時の工夫が語られた。そして，住民の年齢が65歳以上の場合は，村の長が自然死として死亡確認することが可能であり，65歳未満の場合は必ず医師の死亡診断書をもらわなければならないことを知ることができた。

地域の「健康村」という施設では利用者と接することができた。この地域で唯一の医療従事者である保健診療員が住民に信頼されている様子を伺い知ることができた。

（2）GilMyung 保健診療所

GilMyung 保健診療所は，京畿道広州市に位置しており，広州市保健所の管轄である。ここに暮らす１名の保健診療員は，この地域では４年目の勤務であった。住民は，脳卒中，高血圧，上気道炎，関節炎の疾患が多く，体の不自由な患者，認知症，手術後早期退院患者もいるとのことであった。業務内容は YulGil 保健診療所と同じであった。一人で勤務しているため，勉強会や会議，家庭訪問で出かけた際，住民たちの不満が多いことが語られ，業務補助員がいればストレスが軽減するとのことであった。そして，日本においても韓国の保健診療員の

写真４　YulGil 保健診療所の外観

ように，診療と処方，検査，調剤ができるように看護師の役割が拡大されれば患者の利便性が高まるとともに，看護師の地位の向上にもつながるのではないかと話された。韓国の保健診療員として，アメリカのナースプラクショナー（ＮＰ）のように，より多くの薬品を処方する権限を持ち[3)]，開業をすること，定年延長，または，定年廃止も必要であると述べられ，レントゲンの判読と開業権も獲得できるように願うとのことであった。また，インタビュー後には，保健診療員の家庭訪問に同行し，在宅におけるケアの実際を知ることができた。

写真５　GilMyung 地区

写真６　家庭訪問の一場面

３）学生の学びと感想

学生４名は，今回の研修の目的の１つである４年次生後期の看護教育学の授業において，「アジア諸国における看護教育制度－韓国の看護教育制度」を発表することができた。内容は，韓国の看護基礎教育制度，実際に見学した大学の実習や演習室の紹介などであり，使われている教科書や講義が英語であること，授業中の学生が積極的に発言していること，等の驚きを発表していた。そして，日本の看護教育制度と比較し，他の学生と活発な討議が行われた。２つ目の目的である卒業研究においても，「韓国における保健診療員制度」および「韓国におけるプライマリヘルスケアの実態」の調査からそれぞれのテーマに沿ってまとめることができた。学生の学びは多く，口々に有意義な訪問活動であったこと，韓国の文化・歴史・習慣にも触れる機会ともなったこと，等の貴重な体験が語られ，将来展望の夢にまで及ぶ学生もいた。

写真７　看護教育学の授業での報告発表

３．活動を終えての今後の課題

１）参加学生の募集

参加学生の募集にあたり，今回は，学生全員には通知を行わなかった。初めての試みであり，訪問までの期間が短かかったことから限られた選択となった。しかしながら，対象学年については，将来の看護の発展に貢献できるグローバルリーダーシップについても考察できるには，４年次生が適切だと考えられる。今後は早期に，学生全員を対象として参加を募り，英語の語学力はもとより目的意識や学習意欲の高い人選が望まれる。

２）実施時期

実施時期については，他の科目の履修に影響しない，夏休みのこの時期が適切である。また，卒業研究としての取り組みにも文献検索が終えられる適切な時期であり，学生には負担が少ないものと考える。しかしながら，就職試験がある時期でもあり，今後は配慮の必要な学生も出てくるものと考えられる。

３）科目内容と活動内容

授業計画と活動分野とのバランスとしては，当該科目「看護教育学」の授業は10月から11月にかけて１単位30時間で行われる。それに先立ち，シラバスに記載されている学習テーマの「アジア諸国における看護教育制度」

を担当するグループ学生を決定し，実際の現場で調査を行った結果を，当該単元において他学生に対し発表形式で報告した。この報告の準備として，事前に学習した内容と，実際に調査した内容を整理し，日本の体制と韓国の体制について比較を行った。このように今回の研修では，事前準備，活動，事後のまとめが十分に行える期間であったと言える。そして，現地へ赴き実際を見聞することにより，文献調査だけでは味わえない経験をすることができたことは大きな成果と考えられる。訪問活動を通して，韓国の看護教育の一端を知ることにより，日本の教育を考えることができ，より深く日本を知ること[4]の効果が得られた。また，韓国の学生との交流や保健診療員との面談を通して，今後の教育・研究へのモチベーションともなり，将来，国際的視野で活躍できる看護師の育成において他の学生にも良い影響を与えるものと考えられる。学生は，韓国の看護の発展と社会的地域の高い看護師の活躍の見聞から，自己の課題や将来展望を学び得る貴重な機会となった。

４）今後の課題

Chung-Ang University の学生との討議では，内容を深めることができなかった。これは，学生の英語能力の問題があげられる。本学科では，医療英語は選択科目であり，少数の選択者しかいない。今後，これらの改善策が必要である。また学生は，時期的に看護教育学，看護管理学の履修前であり，知識不足は否めない。しかし学生は，日本における看護教育や看護職のキャリア設計について考える機会となり，グローバルな視点は養えたと考えられる。今後はグローバルリーダーシップについても考察できるように学生に関わっていくことが重要となる。

文　献

１）八代利香，桜井礼子，平野亙，洪麗信，草間朋子：韓国における看護師の地域社会での活躍．保健の科学1999；41：153-156

２）八代利香，金順子：韓国における専門看護師．看護教育2007；48：909-914

３）吉本なを：「韓国と米国におけるナースプラクショナーの役割」から．鹿児島大学医学部保健学科紀要2009；19：49-53

４）八代利香：韓国との教育・研究交流プログラム　国際的な視野を持った看護職者の育成を目指して．インターナショナルナーシングレビュー2006；29：40-43

Report on the Kagoshima University Student Overseas Training Support Project

— Students' Activities during Visits to Chung-Ang University and Community Health Clinics in Korea —

Rika Yatsushiro[1], Yuko Matsunari[1], So Woo Lee[2]

1) Department of Fundamental Nursing, School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kagoshima University
2) Oita University of Nursing and Health Sciences

Address correspondence to: Rika Yatsushiro
8-35-1 Sakuragaoka, Kagoshima 890-8544, Japan
Tel/Fax: 099-275-6755
E-mail: yatsu-r@health.nop.kagoshima-u.ac.jp

Abstract

As part of the Kagoshima University student overseas training support project, four students participated in visits to the Department of Nursing, College of Medicine, Chung-Ang University and Community Health Clinics in Korea. Based on an examination of the students' activities during these visits, future issues for the student overseas training support project were clarified.

Key Words: Community Health Practitioner, Nursing education system, Primary Health Care, Korea